

専門科目履修モデル4 「言語コースで日本語について研究する」

学年	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	取得単位	卒業必要単位数	
必修科目	大学での国語力	2	日本語史A・B	4			卒業論文	8	30単位	30単位	
	日本文芸学概論A・B	4	日本文法論A・B	4							
	日本語学概論A・B	4	日本文芸史IA・B	4							
選択必修 科目	ゼミ		ゼミナールA・B	4	ゼミナールA・B	4			8単位	8単位	合計38単位以上
	特講	(8)言語A・B	4	(8)言語C・D	4	(14)沖縄文芸C・D	4		20単位	20単位以上 36単位以下	
				(12)詩歌A・B	4	(15)日本学A・B	4				
選択科目	ゼミナール入門		社会言語学 (★英文)	2	日本語学特殊研究A・B	4			22単位		
	言語学概論A・B (★英文)	4	言語学講義IA・B (★英文)	4	言語学講義IIA・B (★英文)	4					
			言語心理学 (★心理)	2	言語心理学特講 (★心理)	2					
自由科目	データサイエンス入門A・B	4	データサイエンス応用基礎B	2					6単位★	8単位以上	
コメント	<p>「日本文芸学概論」と「日本語学概論」は、3年次までに履修しないと4年次に進級できない、基礎的・包括的な科目です。秋に行われるゼミ選抜のためにも、1年次のうちに履修しましょう。選択必修科目の「特講」は、「(8)言語A・B」を1年次で履修しておきましょう。また、古語についての知識も日本語を研究する上で大変役に立つので、比較的なじみのある近世あたりを履修してもよいかもしれません。もっと本格的な古語を学びたいなら中世や中古を履修するのもよいでしょう。「データサイエンス」系の授業は、言語学が客観的に数値化することが多い学問だという理由もありますが、文系理系を問わず現代人の必須知識ですから是非履修しておくべきです。</p>		<p>2年次からは、選択必修科目の「ゼミナール」が始まります。言語コースに所属すると、「日本文芸史IA・B」以外に「日本語史A・B」と「日本文法論A・B」が2年次からの必修科目となります。履修しないと卒業できない科目なので、2年次のうちに履修しておきましょう。</p> <p>選択必修科目の「特講」については、日本語と他の言語との比較対照を中心内容とする「(8)言語C・D」は欠かせません。間宮夜ゼミの場合は沖縄文芸や中世あたりを、現代日本語を中心に研究したい人は、創造的な言葉遣いに通じる詩歌などが面白いかもしれません。「古文・漢文の基礎」も、文法研究には役立ちますよ。</p> <p>選択科目では、他学科が設置しているものを積極的に履修しましょう。自分に合った卒業論文のテーマに出会えるチャンスだと思ってください。</p>		<p>3年次は、ゼミナールでの学習も2年目となるため、後輩の2年生を指導することも期待されます。そのためには、視野を広げつつ、さらに深く学ぶようにしましょう。特講は、自分の興味にあったものを履修すればよいでしょう。それよりも選択必修です。「日本語学特殊研究」だけでなく、他学科が設置している科目を積極的に履修し、より深く掘り下げた知識を身につけるとよいでしょう。</p>		<p>4年次は、卒業論文に取り組みます。研究の進捗状況を定期的に指導教員へ報告するだけでなく、積極的にアポイントをとって面談してもらい、アドバイスを受けるようにして下さい。卒論は、これまで培った調査力・思考力・表現力などを結集する、学業の総決算です。卒論の作成によって、8単位を取得することになります。(3年次末の時点で、ゼミナールの単位が0の場合は、4年次に進級することはできません。)4年次までに、卒業に必要な単位を満たしていれば、4年次には、学んでおきたい科目を比較的自由に履修できます。</p>		<p>日文科の専門科目では、上に挙げた必修科目と選択必修科目、選択科目以外に自由科目を8単位以上履修する必要がありますが、取得単位で注意しなくてはならないのは総単位数です。必修科目や選択必修科目等の必要単位数を満たしていても、総単位数で卒業必要単位数を満たしていないことがあります。「～単位以上」となっている科目に気をつけて、とくに4年次には必要単位数だけでなく、総単位数に注意して履修してください。</p> <p>(★は、必要単位から2単位分不足していますので、各自で好きな科目を履修して8単位以上取得してください。)</p>		

※ 学部専門科目は、1、2年次の履修上限が42単位です。ここに記載されている2年次の科目をすべて2年次のうちに履修できるとは限りません。上限に達する場合には、3年次に履修してください。

※ 選択科目の「言語学講義IIA・B」や「言語心理学特講」は、他科目との兼ね合いで表中では3年次に入れてあるだけで、実際には2年次でも履修できます。興味がある人は履修してください。